

シマムセンオーディオ試聴会 (2017.8.26)

—DIATONE 試聴会—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された DIATONE の新製品の試聴会に行ってきました。

<http://www.mee.co.jp/kaisyaan/press/prs170818.html>

<http://www.phileweb.com/sp/news/audio/201708/21/18982.html>

<http://www.stereosound.co.jp/news/article/2017/08/21/59713.html>

<http://www.phileweb.com/sp/news/audio/201708/22/18986.html>

<http://www.stereosound.co.jp/review/article/2017/08/23/59810.html>

上記サイトによれば、本新製品は DIATONE ブランドが 70 周年を迎えたことを機に開発されたもので、独自開発したカーボンナノチューブと数種類の樹脂を配合した振動板素材「NCV-R®振動板※1」を低音・高音両スピーカーユニットに搭載することにより、高速・等音速でリアリティーあふれるサウンドを実現したとのことです。

2. 使用機器



DIATONE DS-4NB70 1,000,000 円 (ペア)



DENON PMA-SX1



marantz SA-10

以上の他に、デジタルファイル音源の再生に NAS として **fidata** が、アナログ盤の再生にテクニクスの **SL-1200G** が使用されました。



当日のセッティング

3. 試聴の経過

最初に新しい振動版の解説があり、試聴を挟みながら、その他の技術的な解説が順次行われました。ネオジウムを採用、磁気回路の構造、フレームの構造、エンクロージャーの材質と仕上げ、ツイーターの固定方法、ポートの構造、コイルの構造やワニスの含浸、固定ねじの選択、内部配線の線材など、非常にきめ細かく検討されています。特に注目されたのは、高速伝播と内部損失の両立を行い、ウーファーとツイーターを同一素材として等速を実現したということでした。

最初にハイスピード感を確認するというので、ジャズのドラムやシンバルとアコースティックギターのデュオの CD がかかりましたが、確かに音の立ち上がり、立下り、アタック感、スピード感は申し分なく、クリアーで細かい音までよく出ていました。

次にハイレゾの配信音源でジャズボーカルが再生されましたが、ボーカルのニュア

ンスや全般的に透明感が感じられました。さらに細かい音が拾えているかどうかということで、ジャズがかかりましたが、クリアなベースに加えて地下鉄の音がしっかり聴こえました。続いてのショスタコービッチの 1 番の古いアナログ録音でも、ホールの下を通る地下鉄の音が確認できました。

このようなブックシェルフでの低音の量感はどうかということでパイプオルガンの独奏の CD がかかりましたが、体を揺らすようなところまでは行きませんが、かなりリアルな低音で量感も十分でした。

フルオーケストラの最近のハイレゾ録音はどうかということで、ラトル指揮ベルリンフィルのベートーベン 4 番がかかりましたが、各パートの分離が良く、それぞれの楽器の質感がでていました。

同じくハイレゾ録音の違いということで、ジャズの 88.2KHz24bit と 352.4 KHz24bit 音源の比較があり、フォーマットの違いをよく描き分けている様子を聴くことができました。

再び CD に戻ってジャズボーカルとピアノのラカンパネラがかかりましたが、ジャズボーカルのピアノの音が美しく、難曲のラカンパネラのピアノは演奏テクニックもよくわかり、何よりもピアノの機種まで、これはハンブルクスタンウェイではなく、NY スタンウェイだろうと推測できたことでした。終わってからデモの担当者に確認すると確かに NY スタンウェイとのことでした。

以上、要約すると、スピード感、音の分離、透明感などに優れたスピーカーで、ピアノの質感の表現は特筆されるべきものでした。残念ながらバイオリンなどの選曲がなく、こういったスピード感のあるスピーカーでは、弦の硬質感が出やすいことがどうなのか、その辺が確認できませんでした。

以上